



岸和田市郷土文化室（自然資料館・郷土資料館）

平成 18 年 1 月 10 日

こころを発掘する

山岡 邦章

もったいない。最近とんと聞かなくなった言葉です。今のご時世、モノを大量消費する習慣がすでに私たちに染みついており、「もったいない」はもはや死語でしょう。今、百円ショップに行けば、本当に驚くべきものが売られています。それだけモノが安くなったのですが、反対にモノを大切にすることは確実に薄れてきています。私が子供の頃はまだ、お茶碗を割るとしかられました。しかし最近ではどうでしょう。破片で怪我をしなかったかどうかの親の注意点であり、お茶碗はまた買えばよいという意識が主流であるように思います。



写真は、自然資料館の近くで出土した直径 32 cm の伊万里焼の大皿です。江戸時代の終わりごろのもので、佐賀県の有田の西方、志田窯というところで焼かれた製品です。当時の堺町の住人が所有していたものでしょう。大きな皿ですからきっと特別な日のお料理が盛られていたのかも知れません。でも、写真の大皿をよく見てみると、お皿の表面に妙な線が入っていることに気がつきます。これは焼き継ぎというもので、破損した皿に、当時白玉粉（食べられる白玉粉ではありません）と呼ばれていた一種の無色ガラス、融点の低い鉛ガラス粉末を割れ口に塗り、加熱して溶かして接合し、修理している痕跡なのです。

当時はこういったリサイクルが一般的で、鍋や釜に穴が開いたら「^{いかけ}鑄掛屋」、桶が壊れたら「たが屋」、下駄の歯が磨り減ったら「^{ほおば}朴歯屋」、紙は「紙くず買い屋」、糞尿は肥料として「農家」などが引き取ってゆきました。他にもくず鉄、傘、ハギレ、キセルなど徹底したリサイクルが行われていました。その中で「^{やきつぎ}焼継屋」は、修理道具と携帯用の七輪などを天秤竿で担いで、この岸和田城下を廻っていたのではないのでしょうか。そして大皿だけでなく、普通のお皿やお茶碗、湯飲みにいたるまでを修理していたのが発掘資料からわかっています。新しくお皿や湯飲みを買うより、手間をかけて組み立て接合し、修理した方が安上がりだったのです。

さらに想像をたくましくしてみましょう。お皿を割った人も、割れた皿を捨てないで破片を全て保管しておきました。そして焼継屋さんが通りかかったら修理を依頼しようと表通りを気にしていたかも知れません。そして焼継屋さんが今の自然資料館の前の紀州街道を歩いてきました。そして依頼のあった家の軒先で、この大皿を修

理をした・・・「もったいないから修理しておくれ・・・」「へえ。まいど。」こんな会話が聞こえてきませんか。

そしてこの大皿はめでたく第二の皿人生？を歩むことができました。再び特別の日の料理が盛られたことでしょう。その後、再度割れたためか廃棄され、土中に埋まり、百数十年後に私たちの発掘調査によって再び日の光を見ることができたのです。そして、焼き継ぎをしている面白い資料として、大きく欠けてはいますが、第三の皿人生を歩み、この度みなさんに紹介されることになったという次第です。

どうでしょう。この大皿が伊万里の港から出荷され、どういった経路で岸和田に来たかはわかりませんが、その後の百数十年の数奇な歩みは、この焼き継ぎという「もったいない」精神のお陰で少しだけわかってくるのです。

地面の下に埋もれているのが遺跡です。しかしそこからは土器だけが出てくるわけではありません。すでに人々の心に埋もれてしまった精神も時折ですが、遺物と一緒に出てくるのです。考古学からわかる、まだまだモノがもったいなかった時代のお話でした。

(やまおかくにあき：郷土文化室)

ツルとペリカンが久米田池にやってきた理由

風間 美穂

1. 珍鳥飛来

今年(2005年)の秋、久米田池に珍しい鳥が飛来しました。「コシベニペリカン」と「ナベツル」の2種です。どちらも新聞などで報道されたので、すでにご存知の方もおられることと思いますが、もう少し詳しく説明したいと思います。

コシベニペリカン(2005年9月30日?~10月6日)1羽



↑ コシベニペリカン

久米田池ではじめて確認されたのは9月30日前後ですが、同一と思われる個体が最初に岸和田付近へ飛来したのは9月20日以降のことで、場所

は阿間河滝町のため池でした。その後、貝塚市内の池に数日間滞在してから久米田池へ移動したと思われます。このペリカンは10月5日まで、野鳥観察デッキ付近の浅瀬でアオサギと一緒にフナなどを食べていましたが、10月6日早朝に飛び去ってしまいました。

このペリカンは、世界で知られている7種のペリカンの中で2番目に小さい種類ですが、それでも、府内のため池でみられる鳥の中でもっとも大型であるアオサギと同じくらいの大きさでした。本来の生息地はサハラ砂漠以南の熱

帯アフリカですが、日本でも動物園などで飼育されているようです。久米田池に飛来した個体は羽の状態などから、飼育されていたものが逃げ出した可能性が高く、同じペリカンと思われる個体が2004年春ごろから各地で目撃されています。

ナベツル(2005年11月3日~:11月29日現在滞在中)5羽・うち1羽は幼鳥

久米田池へ飛来したのは11月3日の夕方、これが大阪府内の地上付近ではじめての記録でした。この原稿を書いている11月29日の段階でも、朝6時過ぎに池を飛び立ち、日中は稲刈り後の水田で落穂などのエサを食べ、午後3時前後には池に戻って休息するという生活を続けています。

久米田池に飛来したのと同じだと思われる個体は、和歌山県田辺市でもっと早い時期に確認され



↑ ナベツル

ており、そのときは10数羽の群れでした。その後各地で数羽ずつに分かれ、その一部が久米田池に飛来したと思われます。

このナベヅルは、国指定特別天然記念物、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類、種の保存法による「国際希少野生動物種」に指定され、保護しなければ絶滅する可能

性の高い野鳥とされています。最近の研究では、秋から冬にかけての時期にほとんどの個体が鹿児島県の出水平野に集結し、春から夏には東シベリア南部とロシア極東南部のアムール川、ウスリー川、レナ川流域へ移動して繁殖することが明らかになっています。

2. なぜ、珍鳥がやってくるのか？

久米田池に珍しい鳥が飛来するのは、今回がはじめてのことではありません。過去に新聞にとりあげられたものだけでも、クロツラヘラサギ、クロトキ、オオハクチョウ、ゴビズキンカモメなど、いくつか挙げるができます。とくに、1984年10月に飛来したゴビズキンカモメは、日本ではじめての記録でした。ではなぜ、久米田池にはこうした珍しい鳥が多く見られるのでしょうか。それには、以下の理由が考えられます。

・面積が大きい

大きなため池は、空を飛ぶ鳥の目から見えやすく、降り立つときの目標になりやすいと考えられています。大群になって飛来する場合も、大きければ群れ全体が降り立つことができます。また、ある鳥が1羽で飛来したときには、今回のペリカンのように、他種の群れに紛れて外敵から身を守ろうとすることがあります。面積が大きく、鳥類の種数が多い久米田池は、空から見ると鳥たちのオアシスに見えるのかもしれません。

・外敵が近づきにくい・近づいても逃げやすい

久米田池の堤は池面から高いうえ、周囲をフェンスで囲まれているので、野犬などの外敵が近づきにくくなっています。また、ワシやタカといった空からの外敵が現れても、池周辺の見晴らしがよいので、すぐに逃げるができます。

・水がなくなる時期がある

久米田池は10月になると、魚を採るために水を抜くので、全体が干潟のようになり、シギやチドリのような干潟を好む鳥たちが飛来します。今回のナベヅルも、干潟状になった場所で休息する習性があることから飛来したと考えられます。久米田池は満水状態のときだけでなく、季節によって干潟や湿地などの多様な環境に変化することで、それぞれの生息環境を好む鳥が訪れると考えられます。

・多くの人に見守られている

久米田池の周囲は、地域住民が散歩などをする場として親しまれているほか、探鳥地としても有名で、渡り鳥の多い時期には全国各地から愛鳥家が訪れます。こうした方々によって池が見守られ続けているのも、珍しい鳥が見つかりやすい原因でしょう。

3. 鳥の国際空港・ため池から考えよう

私は久米田池のことを、「鳥の国際空港」とよんでいます。池内ではこれまでに125種類もの鳥類が確認されていますが、その多くは渡り鳥です。これらの鳥にとって久米田池は、エサ場や休息の場所、時には避難場所として、欠かすことのできない環境となっています。

久米田池ほどではありませんが、みなさんの近所にあるため池でも、いろいろな渡り鳥が見られます。ちょうど今の時期なら、カモのなかまなどがいませんか。それらの多くは、はるばるシベリア方面から寒さを避けて飛

来してきたのです。

身近な自然から地球全体の環境にまで意識を向け、その問題のことまで考えるのは、なかなか難しいと思われるかもしれませんが、しかし、身近な池にいる鳥がシベリアから飛来している場合があるように、たとえ身近にあるちょっとした自然であっても、けっして地球全体から切り離して考えることはできないのです。逆に身近な環境調べが、地球環境問題を考えるひとつのきっかけになるかもしれません。

普段よくみかける鳥たちがどこからやってくるのか、どのような環境を好むのか、どのようなものを食べているのかを図鑑やインターネットで調べるだけでも、じつに楽しいですよ。自然資料館は鳥類に関する資料を多数所蔵していますので、授業や調べ学習などでの利用を希望される場合は、連絡の上、ぜひご活用ください。

(かざまみほ：自然資料館)

Information

■ 郷土資料館からのお知らせ ■

企画展「館蔵の絵画」

郷土資料館で収蔵している岸和田ゆかりの画人たちの作品や、これまで市民からご寄贈いただいた絵画作品の優品28点を展示します。

- ・会期 平成17年12月8日(木)～平成18年3月26日(日)
 - ・会場 岸和田城天守閣1階展示室
 - ・入場料 大人200円 中学生以下無料
 - ・時間 午前10時～午後5時(入場は4時まで)
 - ・休館日 月曜日(1月9日は開館)、12月29日～1月5日
 - ・主な展示品：岡部文錦筆「寒山拾得図」1幅、小川翠村筆「岸和田八景」8点、「蝦夷風俗図巻」1巻ほか計28点
- 会期中、展示替えを行いますので、上記資料を展示していない場合があります。

■ 自然資料館2月の行事予定 ■

メランジェゼミ(きしわだ自然友の会との共催です)

学芸員および、各分野の専門家による研究発表会。

- ・日時 平成18年2月5日(日) 午前10時30分～午後

4時30分(申込不要)

- ・会場 自然資料館1階ホール

昆虫館がやってくる!

兵庫県伊丹市の伊丹市昆虫館の皆さんが、昆虫の出すふしぎな音など、さまざまなおもしろい生態を、実物や最新の機械を使って紹介してくれます。

- ・日時 平成18年2月11日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ・会場 自然資料館1階ホール
- ・申込 平成18年1月15日-1月24日(必着)

冬芽のかんさつ会

公園と神社で、樹木の冬芽を観察してみましょう。

- ・日時 平成18年2月26日(日) 午後1時30分～午後3時30分(予定)・雨天中止
- ・場所 岸和田市中央公園
- ・申込 平成18年2月1日-2月14日(必着)

自然資料館行事の申込方法:往復はがきまたはメール(携帯電話不可)で、行事名・参加者全員の氏名・年齢(学年)・郵便番号・住所・電話番号を記入し、きしわだ自然資料館(下記住所)の各行事係までお送りください。

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (0724) 23- 8100 FAX: (0724) 23- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)